

実施日	視察先	視 察 項 目	備 考
4月22日	福岡県 福岡市	自転車道通行環境整備と 放置自転車対策について	
4月23日	福岡県 北九州市	おもてなしの道づくり， おもてなしのゆっくり街 道事業について	
4月24日	大分県 大分市	中心市街地活性化基本計 画について	

視察先	項 目	調査内容
福岡市	自転車道通行 環境整備と放 置自転車対策	<p>建設経済委員会では、4月22日から24日にかけて、福岡県福岡市、福岡県北九州市、大分県大分市へ視察に伺った。</p> <p>福岡市では、自転車通行環境整備と放置自転車対策について御説明いただいた。</p> <p>福岡市は、昭和47年に政令指定都市へと移行した。人口はおよそ151万人で、推計では2035年(平成47年)まで人口が増ていくようだ。現在15歳～29歳の人口が30万人で、政令市の中では最も多い数字である。そのため、自転車利用者も年々増え続けている。</p> <p>福岡市では、通勤・通学における交通手段別の自転車利用の割合が、平成2年の12%から平成22年には20%へ増加している。特に天神地区、博多駅地区周辺の自転車利用者が多いのが現状である。それにより、市民からは、自転車で走行するときの安全性・快適性や自転車通行空間の整備を求める声が出てきた。</p> <p>そこで、限定的ではあるが、平成24年に市内発の自転車専用レーンを、車道を狭くすることで設置した。設置後は5割の自転車が車道を通行す</p>

		<p>るようになり、歩道を走る自転車が減少した。</p> <p>しかし、課題もある。自転車専用レーンへの路上駐車をする自動車があり、自転車がレーンを走れない状況が生じてる。また、自転車レーンを逆走する自転車が増加したことも問題である。自転車専用レーンを設置して環境がよくなることによって、安心して逆走することができるようになってしまったのが一因のようだ。また、都心部はバスやタクシーが多いため、車道部の整備が非常に困難な状態である。このように、解決が必要な課題がいくつかあるのが現状なのである。</p> <p>次に、放置自転車対策についてだが、福岡市天神駅は平成13年と15年に放置自転車数が全国ワースト1であった。これをきっかけに、対策強化をしてきた。対策としては、①駐輪場の整備 ②放置自転車の撤去 ③モラル・マナーの啓発を3本柱とした。</p> <p>駐輪場の整備で特徴的なものとして、官民合築による大規模駐輪場の整備がある。デパートの附置義務駐輪場と市営駐輪場を合築したつくりとなっている。収容台数1015台のうち附置義務は426台、市営は589台となっていて、駐輪場の管理・運営をデパートに一元化し、駐輪場出入り口もひとつに集約している。こうすることで、費用はそれぞれ負担するが、利用形態は通常の駐輪場と変わらない。</p> <p>また、自転車駐輪場の利用を促して、放置自転車を減らすことを目的とした、モラルマナーの啓発等を積極的に行っている。</p> <p>以上のように、対策を強化することにより、平成23年度には、天神駅の放置自転車数は全国48位まで減少した。これからもひきつづき対策を</p>
--	--	--

		強化していくようだ。
--	--	------------

視察先	項 目	調査内容
北九州 市	おもてなしの 道づくり，お もてなしのゆ っくり街道事 業	<p>北九州市では，おもてなしのみちづくり事業，おもてなしのゆっくり街道事業について視察に伺った。</p> <p>北九州市は人口およそ96万人の政令指定都市である。平成18年に北九州空港が開港して，これを機に他市からの来訪者が増加した。そのため，道路や景観の整備を行い，来訪者へのおもてなしを目的とする取り組みに力を入れてきた。</p> <p>おもてなしのみちづくり事業は，おもてなしの玄関「ウェルカムゲート」の整備，花と緑のおもてなし「道路グリーンアップ」の整備，市民によるおもてなし「道路サポーター」の活動を3つの柱としている。</p> <p>市境が分かりやすくなるようにウェルカムゲートの空間を創っている。</p> <p>幹線道路に植樹帯を設置して，花や緑できれいにしたり，文字やマーク入りの植樹を創ったりするような取り組みも行っている。また，自治体だけでなく市民や企業，小学生や幼稚園児などが植樹を行っている。これにより，市民の街への愛着や誇り，おもてなしの心を築いていこうというものである。また，観光客の誘致や都市イメージの向上を図るのも目的のようだ。</p> <p>道路サポーター制度は，平成17年10月よりスタートしたもので，地域の道路清掃や点検活動を支援するものである。掃除用具や花苗の支給等を行い，行政と市民の協働による美しいまちづくりを目指すことが目的である。道路サポーターの対象団体は道路清掃美化などのボランティア活動</p>

		<p>を行う10人以上の団体である。活動内容は、道路清掃活動及び道路施設の点検・異常の通報とともに、花壇の手入れなどの景色美化活動である。</p> <p>また、北九州市では国土交通省の取り組みである「日本風景街道」を推進しており、平成19年度に長崎街道を中心に「おもてなしのゆっくり街道」という位置づけでその地域固有の自然や歴史、文化、風景などを活かした道路や沿線空間を創り出すことで、地域の活性化や観光振興につながる取り組みを行っている。</p> <p>現地視察では、まちなかの要所要所で地域固有の歴史、文化、風景が見られた。</p>
--	--	--

視察先	項目	調査内容
大分市	中心市街地活性化基本計画	<p>大分市では、中心市街地活性化基本計画について視察に伺った。</p> <p>大分市は、平成17年に隣接した2町と合併をした。人口は47万8000人、面積は501平方キロメートルである。大分駅では一昨年から高架改良を行っており、現在も建設途中である。高架改良は、線路によって分断されていた南北の回遊性を向上させることが目的である。</p> <p>大分市は、計画期間を平成20年7月から平成25年3月までとする、中心市街地活性化第1期基本計画を策定した。主な目的は商業環境の改善のようだ。具体的には、小売業年間商品販売額、歩行者通行量、まちなか滞留時間の数値目標を示していた。</p> <p>しかし、第1期計画では数値目標に届かず、大型商業店が2店撤退した。また、駅ビル開業に伴い、周辺部に影響がでる可能性もでてきた。このように、変化していく商業環境に対応するため</p>

		<p>に、エリアマネジメントによる経営戦略の構築に向けた取り組みが必要とのことである。</p> <p>大分市には、大分まちなか倶楽部という株式会社がある。この会社は、中心市街地活性化に関する法律の規定にもとづく官民協同のまちづくり機関として、諸事業の推進を行い、中心市街地の活性化を図っていくものである。</p> <p>大分まちなか倶楽部は、大分商工会議所と大分市が中心となり、活動している。活動内容は多岐にわたるが、中でも「まちなか出店サポートセンター」が実施しているテナントミックス事業とイベントミックス事業は活発に行われている印象を受けた。このうちテナントミックス事業では、開業支援や空き店舗調査、補助申請等の活動を行っている。これにより、空き店舗を活用した支援開業が活発に行われている。平成19年以前は、空き店舗を活用して出店する店に、補助金を出すだけのシステムであったが、現在はまちなか出店サポートセンターに事前に相談をしてもらうことにより、開業するに相応しい状況か見定めてから補助金を出している。これにより、平成19年度から平成24年度までの間に、122店舗が開業した。うち閉店したのは12店舗で、現在110店舗が営業している。</p> <p>また、イベントミックス事業も活発に取り組まれており、平成24年度に大分駅周辺では、年間167日のイベント事業を開催している。</p> <p>現地視察は、商店街を中心に行い、リノベーションされた店舗や大型店等を拝見した。</p> <p>また、大分市独自の取り組みとして、「トイレナーレ」というトイレを舞台にしたイベントが平成27年度に開催される予定だが、その作品の一</p>
--	--	--

		部を拝見した。公園のトイレ，お店のトイレを利用してアート作品を制作している。独自の文化イベントを行うことで，来街者の回遊性を高めることが狙いである。このように，随所に懸命な取り組みが見られた。
--	--	--